

高知県教育振興基本計画の策定に向けて
の教育懇談会における主な意見（抜粋）

教育懇談会の日程・参加人員等

<四万十会場>

- 1 日 時 : 平成20年11月28日(金) 18:30~20:30
- 2 場 所 : 中村合同庁舎(幡多土木事務所)
四万十市古津賀4-61
- 3 参加人数 : 45名

<高知会場>

- 1 日 時 : 平成20年12月1日(月) 18:30~20:30
- 2 場 所 : 高知県立福祉交流プラザ 多目的ホール
高知市朝倉戊375-1
- 3 参加人数 : 78名

<須崎会場>

- 1 日 時 : 平成20年12月2日(火) 18:30~20:30
- 2 場 所 : 須崎市立市民文化会館 大会議室
須崎市新町2-7-15
- 3 参加人数 : 72名

<田野会場>

- 1 日 時 : 平成20年12月4日(木) 18:30~20:30
- 2 場 所 : 田野町総合文化施設ふれあいセンター イベントホール
安芸郡田野町1456-42
- 3 参加人数 : 50名

教育振興基本計画の策定

【高知県の目指していく教育、求められる人材、目指すべき人間像】

- ◇ 知事から学力の現状を聞いた。放課後の学びの場を利用して学力を伸ばすことはよいことだと思う。各学校で確実に取り組めていただけたなら、必ず学力向上につながると思う。体制づくりも必要だし、人員のこともある。教職員の理解と協力が必要。このままの学力では本当に子どもたちがかわいそう。子どもたちを助けてあげてほしい。この子どもたちを助けてやろうとする人材がいてほしい。
- ◇ 高校の教員で、生徒と接して思うのは、「自分は大切にされている、自分は大切な存在だ」と思っている子は、自分で頑張れる。そういう生徒、人を育ててもらいたいし、育てていきたい、と思う。
- ◇ 小中高 12 年間学校にお世話になっており、このテーマが抽象的で、こういった人間像を求めるのか、それともそれは教育のあった結果ではないかという気もする。子どもはいろいろな可能性を秘めていると思うので、それをこうやって一つの何とか人間像という形で捉えていいのだろうかと思っている。
- ◇ 中学校の教員をやりながら、「ある人間像を求めるのか、それは結果なのか」は、現実的には悩んで仕事をしている。中学校では、人格の完成ということを考えてとき、考える子どもたちを育てたいというのが自分達教職員にあった。考える子ども達を育てることは自分達の仕事なので、教材を子どもたちが興味を示すものを工夫し、子ども達が考えることの保障をするなど、学校のあり方を学ぶことができた。学校では、教科や教科書とかも本当はそういう構成になっており、ドラマがたくさんあるところだと思う。
- ◇ 高知県が求める人材に、国家のために、高知県のためにというのは、本来教育的にはふさわしくない。各高知県人がそれぞれの人格の完成を図れるようにすることこそ目標とすべきと思う。高知県の山積している課題は現在の私たちに課せられた政治的課題だと思う。
- ◇ 私は子どもを高知のためや国家のために産んだのではない。目指す人間像を許可もなく県として人間像を決められることは許しがたい。
- ◇ 今日のテーマについて、保護者や教育者のみんなで考えないといけないと思う。教育とは何か、子どもに夢を与えることや勉強イコール生きる力を教えること。子どもたちに夢を与えられない自分たちも問題だと思う。親の意識を変えることが大事であり、このような会を各学校で開催してもらいたい。
- ◇ 本当に教育について考えなくてはいけないのは親であり、親の意識改革も重要だと思う。子どもは親を見て育つので、「求められる人材、目指すべき人間像」というのは、子どもに求めるべきではなく、自らが変わっていき、それを子どもに見せて、それを教育につなげていくというふうな考え方ではないか。39年からあまり学力も上がってないというところで、教育そのものの考え方がずっと間違っていたのではないかと気がなった。

【目標・趣旨】

- ◇ 学力は学校が責任を持って保証すべきこと。子どもは学校以外では学べない。特に

田舎では、学校でしか教育ができない。市町村教委・県教委を含めて学校が教育をしなければならない。基本計画でも趣旨はここにもってほしい。

- ◇ 学校だけで頑張っても大変で、保護者なり地域社会がすることである。その場合、目標を明確にすることが大事。資料の言葉が難しく、理解しがたい言葉が多い。保護者の協力を得るためには、具体的な目標が必要ではないか。保護者と話したときに、高度な教育理論では保護者が理解していない実態がある。
- ◇ (資料には) 本県の教育の目指すべき姿が(案)として書かれているが、本当に家庭で理解ができるのか、と疑問に思う。シンプルで具体的で誰もが分かるようなスローガン、目標を立てていくべきではないか。教育の目的は教育基本法で謳われており、「人格をつくること、人格形成」が根本である。人格教育をもっと力を入れてやること、そこには道徳教育も入ってくるはず。人格教育は一朝一夕でできるわけではなく、一生かけてやるべきことだ。そういうところをもっと考えてこの計画を立てていただきたい。

【基本計画の範囲】

- ◇ 今、家庭教育、躰が欠落をしていると思う。家庭教育、躰は親が行うものであり、昔は三世代家族が多く、祖父母が子どもの育て方を教え、文化が引き継がれていた。今の親が家庭教育や躰について学べる場のシステムづくりをお願いしたい。人格形成に重要な幼児期の子育てを社会で育てる仕組みを構築してほしい。

教育予算

- ◇ 予算的なことが厳しくなっていることは聞いているが、その教育条件の整備をどう考えているか。教職員の数が、今は定員よりも多くは配置されてるが、今の子どもや社会の状況を考えたら、やはり少ないと言える。予算の組み方で有効な活用はできると思うので、そのお金をどう使うか、一番はやっぱり子どもに直接あたる教職員の数を増やすことではないか。学校の施設設備を整えることもそうだと思う。その辺は国の基準は一定はあるが、高知県独自、市町村独自でもできるように法律はなっているはずなので、その辺も考えてもらうことが、学力向上につながるのではないかと。
- ◇ 学校教育のお金の使い方を子どもと直に接するという部分と教員が授業に力を注げる授業の準備・提出物等を見る時間の方向に使ってもらいたいと思う。授業の準備をする時間がなく、その時間を保障してもらわないとできない。
現場に人を増やし、持ち時間数を減らすとか、1クラスの人数を減らすとか、生徒とじっくり関われるような授業の準備ができる時間がほしい。

学力

【全国学力・学習状況調査】

- ◇ 基礎的学力は大事だが、点数で表される学力に気を取られ過ぎているのではないかと。自ら考える力があれば、やがては伸びると思う。
- ◇ 全国的な比較を初めて見て悲しい。高知には子どもを任せられないのが親の本音。教育者を責めるわけではないが、親にも責任があると感じる。なぜこのような差がついたのか。
- ◇ 何とかしなくてはいけないことはまちがいない。それぞれの地域の実態をとらえた意見交換が必要ではないか。それには、地域の課題をズバリ出してもらわないと本当の話し合いにならない。
- ◇ 東部で学力がそんなに低いと言えば、実感としてあまり感じない。多分平均値ということのなせる業だろうと思う。自分たちは学力向上を結果としてどこまで求めるのか、あるいは目標としてどうするのかという議論はもう少し詰めていかないといけないのではないかと。この緊急プランを見て、やはり点数がかなり意識されているとうことを教員としてすごく感じる。教師が、子どもとどう対処し、どんな学校を作っていくかなどを考えるゆとりが学校の教員になくなっていくと嫌な感じだと思う。生徒指導の延長線上のことを考えるのは当然その通りだが、窮屈にしないようにすることが大事ではないかと思う。

【学力向上】

- ◇ 沖縄と高知が学力が低い。これと雇用問題、他にもイジメ、不登校、暴力問題の関係があると思う。前任校の中学校では、すべての面で全国平均を上回っていた。学習以前のことがきちんとできないと学力はつかないという認識のもと教職員が一致して生徒指導と生活指導を徹底してやった。保護者の中にはやり過ぎという方もいたが、教員は、1年先、2年先、10年先の子どもを視野に入れて指導をしていると自分は思っている。子どもたちのためを思ってやっけることは、信念を持ってやっている。心

の教育を進め、その延長に伸びる子どもの向上があると自分たちは捉えている。

- ◇ 土佐の教育改革でも、子どもに力をつけようと教職員が一生懸命やったところは伸びている。職場で悩んでいる母親の姿を見ると悲しく、応援したい。
- ◇ 学テに振り回される方針というのはやめるべきだ。4年の間に全国平均に引き上げる方針と聞いたが、そういう目標は、目標として正しくないと思う。順位を気にする目標よりも、本当に一人ひとりに目を向けた学力こそ大事だと思う。新たな職の導入で基本給の差別化も一層進める方向だと聞いている。教師間に細かく上下関係を作り、目先の数値結果で給料に差をつけるやり方、それは教師本来のあり方を否定するものだと考える。組織的な学校の運営や、体制の充実というようなことが書かれているが、それが教師本来のあり方を否定するものになってはならないと思う。子どもの実情を知らない上から、「これをしなさい、あれもしなさい」と押し付けで、やらなければ仕方がないと思っている教師が一体どれだけいると思か。教育委員会はそういう現場のことをもっと知るべきであり、教師の声を知るべきだ。教員統制ではなく、教育現場の和を大事にすることこそ、これからの基本政策の中でやっていただきたい。

【学習時間】

- ◇ 子どもの勉強時間が30分以下となる原因は何か。自分の家庭では、学校以外でのクラブ活動で大変な状況である。
- ◇ 家庭学習を推進することは、とりあえず教科の勉強をしてくれという押し付けみたいに聞こえ、県の押し付けの教育というか、そういうふうに大人が求める人間・人材に偏る気がして抵抗を感じる。親が共働きとかもあり、親の学習する姿を自分自身もほとんど見たことがない。親も一緒に勉強している姿を見ていると、多分、子ども達もそういうことが自然と育まれるのではないか。親の教育というものをもう少し真剣に考えたほうがいいのかと思う。

【教員の資質・指導力】

- ◇ 資質と指導力は、同列に考えるべきものではなく、別に考えるべきではないか。
- ◇ 教育をしっかりと立て直していこうと思うのだったら、先生が子ども達と本当に真向かっていく時間、これを大事にしなくてはいけない。教育は、現場に基礎を置いて自主的で自由でなくてはならないもの。教育の現場の状況が少しもこの資料からは浮かび出てこない。教職員が資質向上といえ、すぐ研修が出てくる。研修の基本は、自主的で自由でなくてはならないと思うので、研修で年次を区切って一箇所に集めてやる方法は、今後の教育計画の中で立てないでいただきたい。先生方の本務に集中できる条件をどう作るかということをもっと真剣に考えていただきたい。

【小中連携】

- ◇ 小中一貫を始め、5年になるが、小学校、中学校9年間を教員が子どもを見られるということが非常に良い。また、小学校の子どもが中学校の教員といろいろな話ができて、よかったと思う。子どもも中学校に上がってきても全然違和感がない。小学校では、英語活動があるが、それも中学校と小学校の教員と一緒にやっている。そうす

ると中学に入ってきたとき、スムーズに（学習に）入れる。普段から親しんでいる先生と一緒に学習ができるということは、非常に良い面があるのではないかと思います。それから、中1ギャップと言われるが、5年間データを取っており、ギャップ的なものはほとんど見られない。小規模校だから言えるかもしれないが、良い面が出てきていると思う。県内、段々少子化になってくることから、このようなかたちで進めていくほうが、連携を取りやすくないのではないかと思います。子どもを育てていくことに小学校、中学校、保育所と幼稚園が一つのテーブルの上に立って話をしないと、なかなか進まないと思う。保育所も小学校も中学校もそれぞれ一生懸命やってくれている。それをどうつなげるかが大きな問題だと思う。保育所から小学校に、小学校から中学校に段階を上がると、やはり子どもがつまづいてくる、そこをいかに解消していくか。それは、小学校、中学校、あるいは保育所と連携をもたないといけない。そういうテーブルをひとつ設置しないといけないと思う。自分達が成長させる子ども達をどう考えるか、進むべき方向・同じ目線・同じ目標を持たないと進まないと思う。

【産業と教育の連携】

- ◇ 一生懸命子どもを育てても県内で就職、仕事ができる人材がどれくらいいるか。子どもが地元で働きたい、仕事をしたいとなれば、その子どもたちを採用する、そういう産業・企業面での充実もしてほしい。難しいかもしれないが、教育と企業ともやはり連携をもってやらないといけないのではないかと思います。

【キャリア教育】

- ◇ キャリア教育を全教職員をもって進めていくという表現があるが、はたして先生だけで子ども達の進路選択を含め職業意識とか、そういう部分が賄えるのかという疑問がある。行政・学校職員がもっと幅広い目で見えていけば、学校以外にサポーターといわれる部分の活用も必要ではないかなという気が出てくるのではないかな。高知の学力が低いのは、何のために勉強するかということ、自分の将来との関係で充分理解されていない、（学校が）させていない部分があるのではないかな。学校では卒業後の進路や就職のフォローアップだけでなく、学校にいる時に、就職後すぐに止めるとどうなるかなどの教育も必要ではないかな。
- ◇ 高岡高校もキャリア教育を取り入れて、課題をもってそれぞれ取り組んでいる。地元の企業、団体が、生徒とを引き受けていただき、本当に生徒達は大きく成長している。卒業する段階で自分がどこへ進むべきか、進学、就職、それぞれあると思うが、自分の進みたい道がはっきりしてきた。160人という小さな学校ではあるが、今、とても落ち着いて子ども一人ひとりが勉強できる環境にあり、また地元との関連もあり、本当に楽しく、また保護者もPTA活動も楽しく行うことができている。

【高校学区制】

- ◇ 学区制の廃止で、高岡高校はこれから先どうなるか。益々土佐市内の中学校の生徒が高知市内へ流れ、地元に通ってくれる中学生が少なくなるのではないかな。反対に、高知市内から流れて来る生徒が多くなり、交通手段とか経済的に負担が多くなるの

ではないかという、そんなPTAの苦勞も話し合っている。高岡高校が仁淀高校、大柝高校のように統廃合されないかという心配もある。できれば、地元で根ざした高校を助けていただき、益々発展するようご協力をお願いしたい。

- ◇ 「より選択の自由の保障」ということで、学区制撤廃になっているが、高知市の学力を見ると、みんなが高知市内に残れると思わない。郡部に行かざるを得ない子どもも出てくる。そうなる通学費も半端ではない。一部のできる子どものことだけを考えるのではなく、大多数の普通の子どもを考えていただきたい。
- ◇ 学区制を撤廃すると、お金と学力の両方ある子どもが高知市に集中する。子ども達は、未来が見えないと中学校で勉強なんかしたくないと思う。高校に行ってあれしよう、これしようって夢を持っているから勉強もできるのだと思う。そういう夢を奪うような、振興計画は立てたらダメだろうと思う。
- ◇ 県立の高校ならどこで学んでもしっかりと力も付く、希望も持てる、そういう高知県の高校教育を再現していただきたい。高校の学区制は、もっと専門家による、また幅広く県民による検討の時間をかけるべきだ。

【少人数指導・小規模校】

- ◇ なかなか授業についていけない子どもに、しっかり教えていける人数が大事であり、母親たちが望むのはそこだと思う。低学年ではそうでも、上級生や中学生になると30人学級ではなくなるのでお願いしたい。
- ◇ 幡多は小規模校が多く、地域の教育力も含め、行き届いた教育がある。その小さな学校のよさをいかしてほしい。小さい学校はコストはかかるが、存在する値打ちは大きい。大月町での小学校統合で柏島のよさがなくなることを心配している。
- ◇ 私は、山の中の複式の小学校だった。親から、山の中におってはいけない、人の中に出て行きなさいと言われた。いろいろな考え方があがるが、小さければいいとは思わない。
- ◇ 本当に先生1人に対して今の子ども的人数は多すぎるのか。自分たちの年代は1クラス40~50人おり、教育を受けてきた。それで社会人として不適合になったか？逆に人数が少なければ、よい人材が育つのか。
- ◇ 今の子どもたちを大切にするという意味では、授業をするには人数が多い。今の子どもは、一斉授業でも1対1で話さないと自分に言われている感じがしない子どもが増えている気がする。授業での机間指導でも、人数が少ないと1人当りに使える時間が増える。一人ひとりを大切に学力をつけるという点で、クラス的人数を少なくしてほしい。
- ◇ 教員1人当りの生徒数が全国最少で、手が足りていながら、なぜ学力が低いのか。
- ◇ 教員1人当りの人数が少ないということは、それだけ複式が多いということ。1人の教員が4~5人の人数を持つとしても、そのうちの1人が別の学年なら、2時間分の教材研究が必要であり2時間分の余計な仕事というか、そういう苦勞もある。小規模校の中学校では、臨時免許状を発行してもらってという苦勞もある。生徒が少ないということはそれだけ一般的でない教員の教え方が強い点があり、困難も多い。
- ◇ (教員1人当りの生徒数のグラフは) 平均という形でごまかしたと思う。山間部や

海辺の小さな学校と高知市内に集中しているのを並べて平均に出してしまったら、高知県の子どもたちはみんなが8人、9人で先生に習っているように見える。また、郡部では、数学の先生が理科を教えていることもあり、それでは魅力的な授業はできないのではないかと。魅力的な授業ができて、本当に学校が楽しかったら、家庭学習をしようということになる。家庭の所得は少ない、家庭で学習ができる環境が整えられないのをそのまま家庭がダメに見えるのではないかと。

【読書】

- ◇ 学校に専任の司書教諭が置かれてないことが問題だと思う。休み時間に子どもが図書室に行き、「こんな本読んだらどう」と進めてくれる先生がいることは、子ども達の学力を向上させるためには一番だと思う。この図書数の少なさが学力の低さにもつながっていると思う。
- ◇ 中学校が荒れてくると図書室は休み時間は閉められ、子どもたちは本が借りられない。司書教諭よりは図書館司書を置いてほしい。とにかく学校の図書ももっと充実してほしい。高知県で朝読がはやるのは、本がないことをごまかそうとしているのではないかと。

【放課後子どもプラン】

- ◇ 放課後児童クラブは、共稼ぎ世帯等の子ども達が、放課後安全に過ごす場所の提供であり、学習支援をする放課後子ども教室とは求めるものが違うと思う。両方とも否定するものではないが、それぞれ大事であると思う。今、子どもの数が全体的に減ってきており、放課後児童クラブを運営する場合には、補助金がなくなるのではないかと大変心配される。それなども県として保障をしていただきたい。
- ◇ すべての小学校で放課後の「学びの場」の提供、中学校の重点校で「学びの場」の設置をするとあるが、私は学ぶことの基本は、授業の中できちんと学ぶということだし、放課後まで子どもたちを拘束するのだろうかということが疑問に思う。また、生活チェックカードによる生活習慣や家庭学習の点検もあるが、母子家庭、父子家庭の子どもも、両親がいない子どもたちもいる。その中でこういう点検をして、「これができていないからあなたはダメよ」と言われるような、親としてとても心配に思う。

不登校

【受け入れ体制】

- ◇ 不登校の子どもが、本当に教育現場でしっかり受け止められ、心を開いて通える教室があるか。きっちりとした学校には行けないのだから、別の場所に教室を確保してほしい。市町村では努力しているが、空き教室がないなどで異年齢の子どもが一緒のため、低学年の子どもが行きづらいことがある。一生懸命フォローしている先生方が安心して子どもたちを受け入れることができるよう施設の充実をお願いしたい。
- ◇ 小学校も不登校が増え始めたことが気になる。小学校から中学校にあがる教育環境の変化はなだらかでない、中1問題にいかに対応するか。中1問題をいろいろ教えてもらわないと前に進まない。中1問題を分析して一般の人にも分かるように説明してもらいたい。適応指導教室があるが、市町村によっては、そこに来たくても交通手段がなく来られない状況があり、実際に活かした活用を考えてほしい。
- ◇ 不登校が多いから、ただ減らせばいいっていうと、本当に学校行きたくないと言ってる子に対しても、無理やり引っ張って行き、無理やり連れて行けばいいと、いう感じがする。数字上は減るが、子どもたち自身の心は、どうしてもぼろぼろになっていくと思う。

幼児教育

【就学前教育】

- ◇ 母親、保護者の厳しい働き方の影響も受け、子ども達がなかなか人間らしく育つということが難しくなってきたことを日々感じている。朝食抜きや寝不足の子どもも以前から比べると増えてきたし、軽度発達障害の子どもや配慮を要する子どもが増えている。子育て支援が重要な仕事となり、保護者との連携が大事だと思う。しかし、公立でも民間（保育所・幼稚園）でも、保育士が減り、財政難で臨時パートがかなり増えている。一方で長時間保育、園庭開放、一時保育と、保育サービスは増えるばかりで、本当に厳しい状況で働いている。保育士の研修は必要だと思うが、研修に出る余裕がない。認定こども園の推進が、学力向上になるのか。認定こども園自身がまだ周知されていないが、認定した以上はその課題、問題点、前進面、それをきちっと評価・分析した上で推進するのが筋ではないか。就学前の子どもに必要なことは、基本的な生活習慣、生きる力、人とのコミュニケーション能力を生活や遊びの中で育てていくこととだと考える。日々の生活を共にしている保育士や教員が、信頼関係を築きながら、一人ひとりの子どもに、その年齢にふさわしい遊びや生活の中で、接することで豊かな感性が育てられ、意欲のある子どもが育ち、自主性、主体性が育つと考えている。
- ◇ 認定こども園の制度が質の高い保育や教育の推進につながるのか疑問。認定こども園では、英語や漢字、スイミングなど早期教育をしており、県民からすれば、県は早期教育を目指していると取られるのではないか。また、直接契約制度となると保育料滞納の問題もあり、保育制度の在り方を考えてほしい。幼保一元化については、保育は福祉の分野が強くと一本化されると教育という名の下に福祉が薄れるのではと心配する。保育では保健士を通じて家庭への支援をしてもらおうが、保育所訪問を要請しても

難しい状況となっており、窓口の一本化が子どもたちにとって本当によいことだろうか。

- ◇ 現行保育制度でも働いていなくても、保育所には入れることができるのに、あたかも認定こども園になれば、働いていても働いていなくても入所ができるというところだけをクローズアップするのはおかしいのではないか。
- ◇ この不景気で保育分野は、企業がどんどん参入をしていきたいという現状にある。認定こども園を受けて直接契約制度がどんどん広がることで、保育の分野とかに企業がどんどん入ってくることを危惧している。全ての子どもが行き届いた保育や教育を今までどおり受け続けていけるよう、現行の保育制度をしっかりと守っていきたいと感じている。高知県にはこういうのが合っているのではないかと、どんどん声をあげて言っていただきたい。
- ◇ 質の高い保育をしていくため、保育士に対する研修や公開保育をやっていくとあるが、須崎市は、公立は圧倒的に保育所で、その子どもの数も少なかったりとか行政の財政的な面で正規の保育士が少ない。臨時保育士が正規の保育士と同じ状況で何年も働いてくださっている。そういう実態を踏まえたうえで、情熱をかたむけて子どもの保育にあたる状況とか、保育が保障できる状況を整える。このようなことがもっと大事ではないかと思う。
- ◇ 就学前の子どもたちの状況をどう捉えていけばいいかから、出発してくべきだと思う。今の保育所や幼稚園で、子ども達の状況、それから地域の子どもの状況が、本当にどうなっているのかというところを是非考えていただきたいし、現場にも足を運んでいただきたい。そして、研修については、県の研修の押し付けであってはいけないと思う。

教育環境

【保護者の意識】

- ◇ 参観日に行っても懇談会に残らず、親の意識が問題と思う。
- ◇ 人としてどう豊かに誇りを持って生きるのかということが教育の基本に置かれるべきと思う。実態や声が、どれだけ教育委員会から出されるものに反映しているのか。行政に携わる人たちにはお願いをしたいのは、地域社会、子ども達が現実に生活している、その地域社会と学校教育というのがどれほど手を携えて、人づくりに励んでいかななくてはいけないのか、の視点。親が大人が育っていかななくてはならないと思う。その大人の教育を抜きにして、子どもの教育は語れない時代になってきているのではないか。
- ◇ 親は(子どもが)小さいときには、自分の思うように育つような錯覚をしてしまう。中学校ぐらいになり、親の言うことを聞かなくなる。そのことが分かっている方が随分多いと思う。結果として中学校ぐらいに出てくるので、そのように育った結果がそうなる、そういう育て方が悪かったら、それを知らせておく必要があるのではないかと思う。
- ◇ 小学校、中学校、高校で求めること、親が求めることについて高知県は、全部徳島県にから遅れを取っているところがある気がする。土佐の教育改革で、もし本当に学校満足度が高まっているなら、高知県の保護者が求める子どもに対しての水準が低いのではないかと思う。本当は徳島県に比べて数値が低いのに、満足しているはずはないのではないかというところが、気になった。

【家庭教育】

- ◇ 家庭の環境が良ければ、子どもは勉強ができるようになると思う。各家庭に本がない家庭が随分多いのではないか。そういう家庭では本好きの子どもはなかなか育たない。家庭に本がなければ図書館に通うとか方法はあるとは思う。高校での学習時間について、二極化していると感じる。進学校に行ってる子は、やっぱり宿題等もかなり出て、やっているが、そうでない学校に行ってる子どもは、あまり勉強していないということがよく分かる。それで問題等も多いのではないか。

生涯教育

- ◇ 高知県の教育では、まだ生涯教育の地位が低すぎるのではないか。そこをしっかりと教育の施策の中に反映し、必要があれば教育委員会だけではなく、知事部局のほうの地域支援だとか、地域づくりなども手を携えていくことが大切。高知の教育を変えようと思ったら、まず親が、大人が変わることに対して、教育委員会がどれだけ力を持ってその方向に大人を引っ張っていけるのかを、真っ先に考えていかななくてはならないのではないか。

その他

【防災教育】

- ◇ 何年か後に予想される南海大地震の津波対策に備え、どんぐりなどを山に拾いに行き、ポット苗で育て、その苗を校庭のフェンス沿いに植える。植えること自体子どもの教育になり、心の教育や地域づくりにもなるのではないかと思う。